令和6年11月1日発行（毎月1回1日発行）通巻540号 ISSN 2187-7831

SMBC マネジメント プラス

SMBC経営懇話会
SMBCコンサルティング

2024
11
NOVEMBER

特集

リーダーのための「ビジネス心理学」

藤田 耕司
一般社団法人日本経営心理士協会
代表理事
公認会計士　税理士

安村 明史
ビジネス能力開発株式会社
代表取締役社長

内藤 誼人
立正大学 客員教授

著者と1時間

生成AIは一人当たりの生産性を上げる少人数の組織にとって強力な追い風に

梶谷 健人
株式会社POSTS
代表取締役CEO

人を育てる

靴磨きで重要なのは単なる技術ではなく、「何のために磨くのか」という意思

長谷川 裕也
靴磨き家

挑戦する企業

株式会社チクマ

株式会社串カツ田中ホールディングス

挑戦する企業

株式会社 **チクマ**

ユニフォームの「環境」「安全」「安心」に寄与 リサイクル事業や管理システムで業界をリード

1903年創業の株式会社チクマは、ビジネスユニフォームや学生服を取り扱う繊維専門商社だ。長年のノウハウを活かして、「環境」「安全」「安心」にも取り組んでいる。ユニフォームを回収・再資源化するリサイクル事業や、ユニフォームの個別一元管理で盗難や流出を防ぐシステムの構築を通じ、業界をリードしている。

近年、ユニフォーム・学生服業界を取り巻く環境は大きく変化している。ユニフォームに関しては、新型コロナウイルス感染症の流行で打撃を受けたホテルや飲食、交通業界を中心に需要が落ち込んだ時期もあったが、現在ではインバウンドの恩恵により回復基調に転じている。それにともない、異業種からユニフォーム業界へと新規参入する企業も相次いでいる。

一方、学生服は、昨今の教育現場でジェンダーレス対応が求められるようになり、男女でデザインが大きく異なる詰襟やセーラー服から、ブレザータイプへと切り替える学校が急増している。しかし、生地や色味の再現性、価格の維持、継続的な供給体制など専門的なノウハウが欠かせない商材でもあるため、参入障壁は高い。特にブレザータイプは、生地やデザインの種類が多く、それらに対応できる体制も必要だ。そうした状況で、専業としての実績と豊富なノウハウをもつ株式会社チクマが、改めて存在感を高めている。

さらに同社は、環境問題に取り組む先駆的な存在としても知られる。1995年に現在の環境推進室を設置して以来、ユニフォームの再資源化を進めてきた。そして今、最も注力しているのが「チクマノループ」という古着回収リサイクル事業だ。大きな特長は、同社の製品だけでなく、他社製のユニフォームや一般衣料も受け入れていること。指定回収拠点や専用ボックスで回収した衣料を、リサイクル工場で綿状に解繊し再資源化。自動車の内装材などに再利用している。回収される廃棄衣料は、年間700トンにもおよぶ。代表取締役社長の堀松渉氏は、次のように語る。

「一般衣料と異なり、ユニフォームは産業廃棄物として処理する必要があるため取り扱いが難しい。だからこそ、他社製のユニフォームも含めて回収し、再利用する当事業の意義は大きいはずです。業界全体として環境負荷の軽減に貢献できれば、お客様にも喜んでいただけるでしょう。当社は、お客様の困りごとを解決するという観点で常に事業を展開してきました。そうしたチャレンジの積み重ねが、結果として自社の強みにもなっていると考えています」

最も重要な経営資源は「人」 120周年を機に全国の従業員と対話

同社は1903年、毛織物の輸入販売を行う竹馬隼三郎商店として創業された。その前身は、1867年創業の剣菱屋呉服太物店にまでさかのぼる。和装から洋装へと移り変わる社会のニーズに対応しながら、繊維専門商社としての基盤を築いた。さらに、企業がブランディング戦略の一環としてユニフォームに力を入れるようになると、その需要をつかむことで業界に地歩を固めた。現在は、警察や消防をはじめとする官公庁のほか、鉄道、銀行、百貨店など、幅広い業種のユニフォームと、学生服を中心に手がけている。夏場も快適に作業ができる、送風ファンを内蔵したウェア「チクマノスマファ」や、ユニフォーム管理システム「チクマノH.U.B」など、顧客志向の製品・サービスも好評だ。特にチクマノH.U.Bは、ICタグなどでユニフォームを個別に管理するため、在庫管理が効率化できるほか、紛失・盗難防止への意識が高い業種からも支持されている。

2017年、6代目の社長に就任した堀松社長は、社会課題の解決と収益の両立を図る「CSV（共有価値の創造）経営」を目標に掲げて、環境への配慮とともに、以前から同社が提唱する「服育」活動に努めてきた。

「いわゆる『食育』と同様に、衣服を通じて豊かな心を育む『服育』の大切さを発信し続けてきました。こうした活動は、公益の延長線上に自社の発展を位置づけるCSV経営にとっての重要な軸になると考えています。CSV経営は、企業理念の「共存共栄」にも通じます。チクマノループも服育も、先人が築いてくれた企業文化に根ざした取り組みといえます」

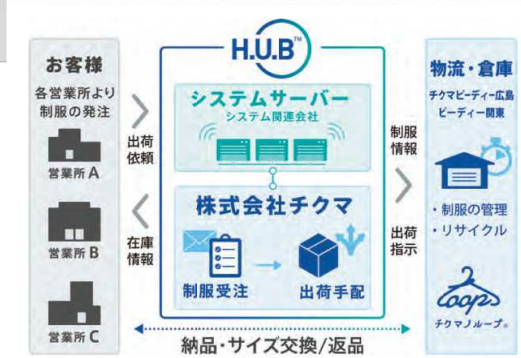
また、人材育成を重視する堀松社長は、すべての従業員を対象にした、外部講師による研修会を昨年から復活させた。24年には、管理職を対象とした「ファシリテーション型マネジメント研修」を行い、各部署のリーダーを中心とした自律的な組織運営を目指している。これらは、商社における最も重要な経営資源は「人」であることを再認識する取り組みでもある。

創業120周年の節目を迎えた23年には、全国の8拠点を堀松社長が訪問する「アニバーサリーミーティング」を計18回にわたり行い、一般職や派遣社員を含むほぼすべての従業員との対話を実現した。

「『会社の未来を語ってほしい』という声を聞くことができ、大きな収穫となりました。現在は、10年後の経営や事業のあり方についての私の考えを伝えながら、その実現に向けたロードマップづくりを進めています。今後は、ますます先行きが見通しにくい時代になるでしょう。一人ひとりが自律的に目標を掲げて行動する個性的なサムライ集団にならなければ、専門商社は生き残ることができないかもしれません。人材を大切に育てて、これからもお客様から必要とされる会社であり続けたいと思います」

ユニフォームのニーズの多様化に応じたデザインにも同社のノウハウを発揮

回収された衣料品は断裁（写真左）ののち、さらに細かく粉砕され（右）、再資源化される



警察や消防などの官公庁、鉄道、銀行などのユニフォームは、スタッフへの支給から廃棄まで厳密な管理が求められる。それを一手に引き受ける「チクマノH.U.B」

堀松社長（写真左中央）が従業員と対話する「アニバーサリーミーティング」。同社の未来に結びつく貴重な意見もあがったという

「服育」活動の20周年を迎えた今年は、各地で講演会を開催

Corporate Profile

代表取締役社長	堀松 渉
本　社	大阪府大阪市中央区淡路町3-3-10
創　業	1903年
売 上 高	171億円（2023年11月期）
従業員数	214名（2024年8月末）
https://www.chikuma.co.jp	

「10年後の幹部社員を育成することが最大の使命です」と語る、代表取締役社長の堀松渉氏

取材・文／榎本充伯　撮影（P.12右下、P.13右下）成田直茂　写真提供（その他）／株式会社チクマ